

分担研究報告書

がん緩和・在宅医療における東日本大震災の経験を生かした東南海地震への備えに関する研究

研究分担者 森田達也 聖隷三方原病院 緩和支援診療科 部長

研究協力者 秋山 聖子（東北大学病院 がんセンター）
河原 正典（岡部医院）
菅野 喜久子（東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻緩和ケア看護学分野）
金野 良則（気仙中央薬局）
白土 明美（聖隷三方原病院 臨床検査科）
高橋 美保（ホームケアクリニックえん）
伊達 久（仙台ペインクリニック）
橋本 孝太郎（ふくしま在宅緩和ケアクリニック）
星野 彰（岩手県立中央病院 緩和医療科）
宮下 光令（東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻緩和ケア看護学分野）
村上 雅彦（岩手県立大船渡病院 緩和医療科）
渡辺 芳江（岡部医院 訪問看護ステーション）

研究要旨

本研究の目的は、東日本大震災のがん緩和・在宅医療における経験を、東南海地震の発生が予測される地域での医療福祉従事者が共有し、地震による災害被害の予防、発生時の対応に生かすための患者家族・医療者向け資料を作成することである。昨年度までに行われた東日本大震災時のがん緩和・在宅医療に関わっていた東北地方の医療従事者を対象としたインタビュー調査、医学文献、および医学論文以外の一般書籍を検索し、質的に分析した。これをもとに大規模災害が生じた場合の災害被害の予防になること、医療福祉従事者が知っていることと役に立つことをまとめた患者家族向け冊子を作成した。作成した冊子を東南海地域の医療福祉従事者に配布した。来年度は、実際に東日本大震災を経験した医療従事者の体験をまとめた冊子とともに全国へ発送する。

A．研究目的

本研究の目的は、東日本大震災のがん緩和・在宅医療における経験を、東南海地震の発生が予測される地域での医療福祉従事者が共有するための、患者家族・医療者向け資料を作成し、地震による災害被害の予防、発生時の対応に生かすことである。

B．研究方法

昨年度までに行われた東日本大震災時にか

ん緩和・在宅医療に関わっていた東北地方の医療従事者 30 名を対象としたインタビュー調査を質的に解析した。医学中央雑誌のデータベース、一般図書、Web 上の情報から、東日本大震災時のがん緩和・在宅医療に関する記載のある文献を系統的に検索し、質的に分析した。上記の解析をもとに、実際に東日本大震災を体験した多職種の研究協力者（文末）を含めた議論を行い、東南海地震を想定して大規模災害が生じた場合の災害被害の予防になること、実際に現場の医療福祉従事者が知っていることと役に立つことをまとめた冊子を作成した。

作成した冊子を、東海地域の医療福祉従事者に配布した。

C. 研究結果

冊子「大規模災害に対する備え がん治療・在宅医療・緩和ケアを受けている患者さんとご家族へ 普段からできることと災害時の対応」を作成した。内容は、「一般的な災害への備えと対応」、「がん治療・抗がん剤による治療を受けている方へ」、「医療用麻薬を使用している方へ」、「電動ポンプを使用している方へ」、「酸素療法を行っている方へ」、「たんの吸引を行っている方へ」、「自宅で人工呼吸器を使用している方へ」の7章と、参考資料として「外部電源の確保の方法」「医療用麻薬の代替りの薬リスト」「災害直後に出されたがん・在宅・緩和医療に関する主な通知類」「役立つ情報集」から構成されている。

作成した冊子は、東海地域の在宅療養支援診療所 68 施設、訪問看護ステーション 29 施設、居宅介護支援事業所 10 施設に送付された。

来年度は、東日本大震災時にがん緩和・在宅医療に関わっていた医療従事者のインタビュー調査から得られた体験者の声をまとめた冊子と合わせて、全国に発送するとともに、これらの PDF 版を国立がん研究センターホームページ上に公開する予定である。

D. 考察

医療者を対象とした大規模災害への備えや災害時のマニュアルとしては、市町村や都道府県で作成されているものや、施設ごとに作成されたものが web 上で公開されているが、がん緩和・在宅医療をうけている患者・家族を対象として、具体的に普段から備えておくこと、災害時の対応に焦点をあててまとめられたものはほとんどなかった。

本冊子は、東日本大震災の経験をもとに、がん治療、緩和ケア、在宅医療をうけている患者・家族が「今」備えておけることを中心に記載されている。患者・家族向けに作成されているが、医療福祉従事者と一緒に読み、災害への備えについて考えることを想定した。現場のレベルで行える、具体的な内容が記載されている

ため、患者・家族が行動にうつしやすいのではないかと考える。また医療福祉従事者にとっても、患者・家族と具体的な対応を話し合っておく機会になることが予想される。

東日本大震災後に出された通知類を資料として記載したが、これらはすべて 2013 年 10 月現在のものであり、今後要件が変更される可能性がある。

本冊子はプロトタイプ版として試作されたものであり、実際に使用された上での有用性についてはまだ評価できていない。

E. 結論

東日本大震災のがん緩和・在宅医療における経験を、東南海地震の発生が予測される地域での医療福祉従事者が共有し、地震による災害被害の予防、発生時の対応に生かすための、冊子を作成し、東海地区の医療福祉従事者へ配布した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Komura K, Kawagoe S, Morita T, et al: Patient-perceived usefulness and practical obstacles of patient-held records for cancer patients in Japan: OPTIM study. *Palliat Med* 27(2): 179-184, 2013.
2. Otani H, Morita T, et al: Usefulness of the leaflet-based intervention for family members of terminally ill cancer patients with delirium. *J Palliat Med* 16(4): 419-22, 2013.
3. Shirado A, Morita T, Miyashita M, et al: Both maintaining hope and preparing for death: Effects of physicians' and nurses' behaviors from bereaved family members' perspectives. *J Pain Symptom Manage* 45(5): 848-858, 2013.
4. Morita T, et al: Palliative care in Japan: a review focusing on care

- delivery system. *Curr Opin Support Palliat Care* 7(2): 207-215, 2013.
5. Morita T, Miyashita M, et al: Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. *Lancet Oncol* 14(7): 638-646, 2013.
 6. Kunieda K, Morita T, et al: Reliability and validity of a tool to measure the severity of dysphagia: The food intake LEVEL scale. *J Pain Symptom Manage* 46(2): 201-206, 2013.
 7. Kizawa Y, Morita T, Miyashita M, et al: Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer. *Am J Hosp Palliat Care* 30(6): 552-555, 2013.
 8. Yamaguchi T, Morita T, Matoba M, et al: Clinical guideline for pharmacological management of cancer pain: the Japanese society of palliative medicine recommendations. *Jpn J Clin Oncol* 43(9): 896-909, 2013.
 9. Kanbayashi Y, Morita T, et al: Predictive factors for agitation severity of hyperactive delirium in terminally ill cancer patients in a general hospital using ordered logistic regression analysis. *J Palliat Med* 16(9): 1020-1025, 2013.
 10. Yoshida S, Morita T, et al: Practices and evaluations of prognostic disclosure for Japanese cancer patients and their families from the family's point of view. *Palliat Support Care* 11(5): 383-388, 2013.
 11. Imai K, Morita T, et al: Sublingually administered scopolamine for nausea in terminally ill cancer patients. *Support Care Cancer* 21(10): 2777-2781, 2013.
 12. Yamamoto R, Morita T, et al: The palliative care knowledge questionnaire for PEACE: Reliability and validity of an instrument to measure palliative care knowledge among physicians. *J Palliat Med* 16(11): 1423-1428, 2013.
 13. Amano K, Morita T, et al: Effect of nutritional support on terminally ill patients with cancer in a palliative care unit. *Am J Hosp Palliat Care* 30(7): 730-733, 2013.
 14. Morita T, Miyashita M, Kawagoe S, Kinoshita H, et al: Exploring the perceived changes and the reasons why expected outcomes were not obtained in individual levels in a successful regional palliative care intervention trial: an analysis for interpretations. *Support Care Cancer* 21(12): 3393-3402, 2013.
 15. Igarashi A, Miyashita M, Morita T, et al: A population-based survey on perceptions of opioid treatment and palliative care units: OPTIM Study. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013 Mar 15. [Epub ahead of print]
 16. Amano K, Morita T, et al: The determinants of patients in a palliative care unit being discharged home in Japan. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013 Apr 2. [Epub ahead of print]
 17. Otani H, Morita T, et al: Effect of leaflet-based intervention on family members of terminally ill patients with cancer having delirium: Historical control study. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013 Apr 23. [Epub ahead of print]
 18. Muta R, Miyashita M, Morita T, et al: What bereavement follow-up does family members request in Japanese palliative care units?: A qualitative study. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013 May 16. [Epub ahead of print]
 19. Ando M, Morita T, Miyashita M, et al: A pilot study of adaptation of the transtheoretical model to narratives of bereaved family members in the bereavement life review. *Am J Hosp Palliat Care*. 2013 May 20. [Epub ahead of print]
 20. Sasahara T, Kinoshita H, Morita T, et

- al: Assessment of reasons for referral and activities of hospital palliative care teams using a standard format: A multicenter 1000 case description. J Pain Symptom Manage. 2013 Aug 21. [Epub ahead of print]
21. Imura C, Morita T, Kinoshita H, et al: How and why did a regional palliative care program lead to changes in region? A qualitative analysis of the Japan OPTIM Study. J Pain Symptom Manage. 2013 Aug 24. [Epub ahead of print]
 22. Ise Y, Morita T, et al: The activity of palliative care team pharmacists in designated cancer hospitals: A nationwide survey in Japan. J Pain Symptom Manage. 2013 Sep 6. [Epub ahead of print]
 23. Yamaguchi T, Morita T, et al: Pneumocystic pneumonia in patients treated with long-term steroid therapy for symptom palliation: A neglected infection in palliative care. Am J Hosp Palliat Care. 2013 Sep 30. [Epub ahead of print]
 24. Shimizu Y, Miyashita M, Morita T, et al: Care strategy for death rattle in terminally ill cancer patients and their family members: Recommendations from a cross-sectional nationwide survey of bereaved family members' perceptions. J Pain Symptom Manage. 2013 Oct 22. [Epub ahead of print]
 25. 宮下光令(編集), 森田達也(医学監修), 他: ナーシング・グラフィカ成人看護学 緩和ケア. メディカ出版, 2013.
 26. 森田達也: せん妄マネジメントの実際とケアの具体策 がんによる「せん妄」の原因と出現するメカニズム. がん患者ケア 6(3): 62-66, 2013.
 27. 森田達也: せん妄マネジメントの実際とケアの具体策 「せん妄」の薬物治療とケアの注意点. がん患者ケア 6(3): 67-72, 2013.
 28. 山内敏宏, 森田達也: EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第 5 回代替全身投与経路 2 突出痛に対するオピオイド. 緩和ケア 23(1): 61-63, 2013.
 29. 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会(編集): 終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 2013 年版. 金原出版株式会社, 2013.
 30. 森田達也: 社会の力を最大化する「顔の見える関係」緩和ケアプログラムの地域介入研究 (OPTIM-study) を終えて. 週刊医学界新聞 第 3019 号: 4, 2013.
 31. 厨芽衣子, 森田達也: EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 最終回 1 オピオイドスイッチング, 2 オピオイドカバ. 緩和ケア 23(2): 161-162, 2013.
 32. 森田達也: 緩和ケア普及のための地域プロジェクト (OPTIM-study.) から得られたものをどう生かすか. ホスピス緩和ケア白書 2013, (財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会(編), (財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団, 28-37, 2013.
 33. 佐藤一樹, 宮下光令, 森田達也: 地域における緩和ケア(在宅緩和ケア) 緩和ケア普及のための地域プロジェクト(1) 緩和ケア普及のための地域プロジェクトで使用した評価尺度. 保健の科学 55(4): 230-235, 2013.
 34. 森田達也: 地域における緩和ケア(在宅緩和ケア) 緩和ケア普及のための地域プロジェクト(2) 地域プロジェクト (OPTIM-study) の効果. 保健の科学 55(4): 236-241, 2013.
 35. 森田達也, 他: 「緩和ケアに関する地域連携評価尺度」の開発. Palliat Care Res 8(1): 116-126, 2013.
 36. 木澤義之, 森田達也, 他: 3 ステップ実践 緩和ケア. 青海社. 2013.
 37. 日本アプライド・セラピューティクス学会(編集): 2 ページで理解する標準薬物治療ファイル. 南江堂. 2013.
 38. 森田達也, 他: がん患者のこころのケアと地域ネットワーク OPTIM-study の知見から. 精神科 23(3): 307-314, 2013.
 39. 森田達也: 苦痛緩和のための鎮静. medicina 50(11 増刊号): 527-531, 2013.
 40. 森田達也, 宮下光令, 他: 患者・遺族の緩和

和ケアの質評価・quality of life, 医師・
看護師の困難感と施設要因との関連. 緩和
ケア 23(6): 497-501, 2013.

2. 学会発表

1. 森田達也: シンポジウム2 せん妄のケア、
マネジメントの進歩と問題点 S2-1 終末
期せん妄の最新の知見. 第 18 回日本緩和
医療学会学術大会. 2013.6, 横浜
 2. 笹尾佐喜美, 森田達也, 他: パネルディ
スカッション 4 在宅移行を考える PD4-5
一般訪問看護ステーションの在宅緩和ケ
アにおける在宅看取り率に関する検討.
第 18 回日本緩和医療学会学術大会.
2013.6, 横浜
 3. 西智弘, 森田達也, 他: ワークショップ4
卒後教育の果たす役割 WS4-5 緩和ケア医
を志す若手医師の教育・研修に関連したニ
ーズ: 質的研究の結果から. 第 18 回日本
緩和医療学会学術大会. 2013.6, 横浜
 4. 雨宮陽子, 森田達也, 他: ワークショッ
プ7 緩和ケアチームの光の影 WS7-4 アウ
トリーチと地域連携パスを用いた緩和ケ
アチーム活動の在宅移行の影響. 第 18 回
日本緩和医療学会学術大会. 2013.6, 横
浜
 5. 今井堅吾, 森田達也, 他: 終末期がん患
者の難治性嘔気に関するオンダンセトロ
ンの効果. 第 18 回日本緩和医療学会学術
大会. 2013.6, 横浜
 6. 間間愛, 宮下光令, 森田達也, 他: 客観
的身体機能と主観的 QOL はリハビリ介入
前後でどのように相関するか: J-REACT.
第 18 回日本緩和医療学会学術大会.
2013.6, 横浜
 7. 緒方政美, 宮下光令, 森田達也, 他: 進
行がん患者の廃用症候群に対するリハビ
リテーションは QOL の維持に貢献してい
る可能性がある: J-REACT. 第 18 回日本緩
和医療学会学術大会. 2013.6, 横浜
 8. 中里和弘, 森田達也, 宮下光令, 他: 緩
和ケア病棟入院中に患者と家族が交わす
思いと言葉に関する量的研究 (J-HOPE2)
~果たして思いは言葉にしないと伝わら
ないのか?~. 第 18 回日本緩和医療学会
学術大会. 2013.6, 横浜
 9. 村上望, 森田達也, 他: 「在宅に行くと寿
命が短くなる」のか?. 第 18 回日本緩和
医療学会学術大会. 2013.6, 横浜
 10. 山脇道晴, 森田達也, 宮下光令, 他: ご
遺体へのケアを看護師が家族と一緒に
行うことについての家族の体験・評価.
第 18 回日本緩和医療学会学術大会.
2013.6, 横浜
 11. 五十嵐美幸, 宮下光令, 森田達也, 他:
がん患者の死亡場所に関する要因 死亡票
の分析. 第 18 回日本緩和医療学会学術大
会. 2013.6, 横浜
 12. 青木茂, 森田達也, 他: 遺族調査による
当院の自宅看取りへの評価. 第 18 回日本
緩和医療学会学術大会. 2013.6, 横浜
 13. 田辺公一, 森田達也, 他: 在宅緩和ケア
地域連携パスの有用性検証を目的とした
インタビュー調査. 第 18 回日本緩和医療
学会学術大会. 2013.6, 横浜
 14. 大木純子, 森田達也, 他: 保険薬局の現
状より在宅がん患者の医療用麻薬導入時
に病院の医療従事者としてできること.
第 18 回日本緩和医療学会学術大会.
2013.6, 横浜
 15. 中澤葉宇子, 森田達也, 宮下光令: がん
診療連携拠点病院緩和ケアチーム研修会
の評価~研修後追跡調査結果~. 第 18 回
日本緩和医療学会学術大会. 2013.6, 横
浜
 16. 新城拓也, 森田達也, 宮下光令, 他: 医
療用麻薬の使用に対する遺族の体験に基
づいた知識と意向. 第 18 回日本緩和医療
学会学術大会. 2013.6, 横浜
- H. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許の取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし

